草加八潮地域連携呼吸器研究会(SYRC-R:シルク・アール)

#### 事務局:草加八潮医師会

〒340-0018 草加市中央1-5-22 TEL 048-928-8760 FAX 048-924-7180

代表世話人・会計: 高木 寛 (高木クリニック)

世話人:加藤 貴紀

(かとうファミリークリニック)

平田 大介

(草加八潮医師会学術担当理事・平田クリニック)

広報·編集· 新 謙一

(草加市立病院・東京医科歯科大学臨床教授)

看護 • 介護部門世話人

花木 美穂子

(わーくわっく草加) 須鴨 義夫

(一正堂薬局第二支店)

村瀬 妙子

(訪問看護ステーション氷川)

高橋 克幸

(獨協医科大学越谷病院リハビリテーション部)

新 智美

(草加市立病院看護部

国際医療福祉大学院保健医療学看護学分野

看護管理開発学領域修士課程専攻)

監查:草加八潮医師会事務局

会報著作・製作:新 謙一

SYRC-Rは草加八潮の周辺地域からのご参加も歓迎致します

#### 草加市立病院呼吸器科は紹介予約制(水曜日は癌以外の紹介を)

管理を要し疾患が進行した患者さんや紹介患 大変参考になります。 者さんへの質の高い診療を心がけています。 ニック・診療所など)に先に受診してご相談 代表)

草加市立病院呼吸器専門外来は紹介予約制 いただき、必要に応じて地域医療連携室を介 を原則としています。COPDや肺癌を始め、 してのご予約(事前資料準備の為)をして頂 気管支喘息、肺炎など多彩な疾患を診療して くようにお願いしております。当科受診時は います。事前に、当院にある資料を準備し、 紹介元の先生からの紹介状・レントゲンなど 電子カルテではないので以前のカルテを探し のほかに、患者ご自身がお持ちのお薬手帳や 出し、外来前日にカルテを予習して、複雑な 過去の健康診断の結果などもご持参頂けると

なお、急患には個別に対応しますので内科 その為お一人お一人にかなりの時間がかかり 系外来(時間外は救急外来)または地域医療 ます。患者さんには、ご地元の先生(クリ 連携室までご連絡下さい(TEL048-946-2200

# 内科 2 呼吸器科 循環器科

シルク・アール: 質の高

い滑らかな地域連携に!

草加八潮地域連携呼吸器研究会

(英名: <u>S</u>oka-<u>Y</u>ashio <u>R</u>egional

Conference of Respiratory Dis-

ease) は頭文字をとりSYRC-Rと

表記し、「シルク・アール」と発

音します。絹(シルク)の様に質

の高い滑らかな連携がある(アー

ル)ことを目指しての語呂合わせ

名前負けしないように継続発展さ

皆様のご理解とご協力を何卒よろ

せていきたいと考えています。

しくお願い申し上げます。

のネーミングです。

外来前日にカルテを「予習」して診察しています

#### 草加内科呼吸ケアクリニックを9月中旬にオープンいたします

6年前の草加市立病院呼吸器科新設以降、 クを開かせて頂きます。クリニック内にはリ 惑をおかけしてきました。この度、迅速検査 Aの呼吸器リハビリにも取り組む予定です。 対応の総合内科専門医診療、24hr呼吸器専門 密入院検査に対応する設備を備えたクリニッ いいたします。

多大なるご協力を頂いてきましたが、在宅酸 ハビリ室を備え、第2期より外来呼吸リハビ 素・NPPVや末期肺癌などを包括的に在宅管 リプログラムを整え、獨協医科大学越谷病院 理する必要がある症例が徐々に増加し、ご迷 の入院リハビリと連動してエビデンスレベル

水曜日は草加市立病院で終日外来を行い 往診、COPDに限らず喫煙関連疾患のトータ SYRC-Rの連携機能維持に努力させて頂きま ルマネージメント、および睡眠時無呼吸の精 すので、皆様のご理解とご協力を宜しくお願 新 謙一 拝

### 草加内科呼吸ケア クリニック

睡眠時無呼吸(いびき)精密検査 在宅债養支援診療所 呼吸リハビリテーション

草加市草加1-4-5 (携帯090-9969-6567)

草加八潮地域連携呼吸器研究会(SYRC-R)

#### ハイライト:

在宅呼吸管理は私達の地域ではまだ 十分ではないと感じています。今回 は医療者から患者に立場が変りALS で在宅呼吸管理をしている元訪問看 護師さんと呼吸管理を担当している クリニック所属のMEの先生にお話を 伺います。入院医療は患者さんに とっては人生の僅かな期間であり、 真の医療は人生の大半を過ごす在宅 にあります。私達が昨日より出来る 自分になって「地域が大きなホスピ タル」として機能するよう、一緒に 頑張ってみませんか!!

#### 目次:

部門世話人ごあいさつ

草加八潮地域連携呼吸器研究会 (SYRC-R)が紹介されました

第107回内科学会総会 研修医の演題がプレナリーセッ ションに選出

COPD連携患者の冠動脈CT

講演:訪問看護師がALSになっ p3 て(牛久保結紀さん)

講演:クリニックMEによる在 p3 宅呼吸管理 (阿部博樹先生)

COPD地域連携パス関連症例の p3 横断調査

COPD疑いは8:30AM外来へ p3

p4

草加市立病院呼吸器科より

草加内科呼吸ケアクリニック

## 「もっと多くの人たちに呼吸リハビリを…」





第4巻 第1号 発行日2010年6月29日

## 理学療法士がこの会に参加して呼吸リハビリを広めたい

表題の台詞は、僕の目標の一つです。呼吸 リハビリは COPD 患者さんに効果があり、最近 注目され少しずつ行なう病院:施設が増えてき ています。当院でも、チームを作って包括的 呼吸リハビリを行なっています。包括的、 チーム…、つまり、呼吸リハビリは理学療法 士·作業療法士と言った所謂リハビリ職種だけ が行なうものでは有りません。他職種のみん なで患者さんにより良いものを提供していく ものなのです。実際、今までやってきて少し ずつですが、効果は有ったと患者さん達も僕 達も感じています。そして、一年前のこの会 で実習をさせていただいた時から僕の視野に は、地域連携という言葉が入ってきました。 それまでは、自分が働いている病院の患者さ

んの事だけで精一杯でした。ですが、それで は呼吸リハビリを受けられる方が限られてし まうのです。先程、呼吸リハビリを行なうと ころが増えてきたと書きましたが、それでも 未だ少ないのが現状です。ですから、自分が この会に参加することで、より多くの方に呼 吸リハビリを知ってもらい、体験してもらい たいと思うのです。

更に、SYRC-R のスローガン「お互いの顔が見 える地域連携に」この言葉も良い目標です ね。各地域・各病院の他職種のスタッフが連携 して患者さんにより良いものを提供してい く。正に、包括的呼吸リハビリでは有りませ んか?

## 草加八潮地域連携呼吸器研究会(SYRC-R)が紹介されました









第4巻 第1号 発行日2010年6日29日



#### 第107回日本内科学会総会・講演会オンデマンド配信

THE 107th ANNUAL MEETING OF INTERNAL MEDICINE

### 第107回日本内科学会総会・講演会オンデマンド配信

# 内科学を学ぶ

■会期:2010年4月9日(金)~11日(日)

■会場:東京国際フォーラム

■会頭:小林 祥泰



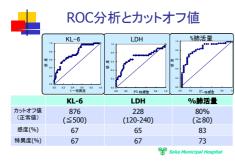
#### 祝プレナリーセッション選出

4月9~11日に開催された第107回 日本内科学会総会で当院初期研修 医の惠島将先生が右のタイトルで 応募した演題が、採択演題522題 中の14題に選出され、東京 フォーラムのメイン会場で堂々と 発表いたしました。来年春までオ ンデマンド配信されてますので内 科学会会員の先生は是非ご覧くだ さい。



## 草加八潮地域連携における 外来管理間質性肺炎100例の検討 ~外来で呼吸器医の逆紹介判断に影響する因子~

2006年から2009年までの草加市立病院呼吸器科が独自に構築した地域連携データベース4796 例から当科から地域医療機関に間質性肺炎として逆紹介した100例をレビューした。内訳は男性 68例、女性32例で平均年齢は男性70.3歳、女性73.0歳だった。間質性肺炎の逆紹介には肺活量 (VC80%) と自覚症状(息切れ)と過去画像との変化の有無が呼吸器科医の判断に影響してい た。逆紹介例は草加市検診での経過観察に乗せれば実地医家の負担を軽減した形で安全に管理 できることが確認された。本研究のもう一つの意義は、初期研修医が同一疾患100例の診療手順 を集中的にカルテレビューする事で実臨床に反映できる臨床力を養ったことである。



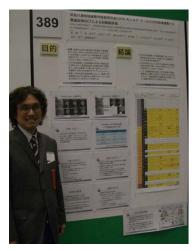


#### まとめ

- 当院呼吸器科のIP患者の逆紹介可否判断は
- 息切れ>咳>ばち指 %肺活量> KL-6·LDH > SpO2·6分間歩行検査
- 画像の経年変化
- IPが増悪した症例は逆紹介例で有意に少なかった。
- 実地医家においても、同様の診療方法により呼吸器 科医紹介の必要性を判断できる可能性がある。

配信サイト→https://member.naika.or.jp/member/content/ninsho1/naika107/plenary/

ご覧頂くためには日本内科学会会員であることの認証が必要です



## COPD連携パス患者のCT冠動脈造影を報告

COPDを疑われた2007~2008年度の154例に ついて16列ヘリカルCT実施133例の冠動脈石灰 化を評価し57例に石灰化を認めた。呼びかけに 応じた患者に対し64列CTにて電子ビームCTと CT冠動脈造影を計21例施行した。冠動脈狭窄 所見は石灰化部分に多く認めるも石化化の程度 と狭窄度は必ずしも比例せず、石灰化を伴わな いプラーク病変も検出した。循環器専門対応を 要する症例や脂質・血圧管理をより厳格にする 必要が生じるなど、喫煙関連疾患としてCOPD と虚血性心疾患の双方を念頭に置いた全人的管 理が予後改善に寄与する可能性を示唆した。



#### 結果のまとめ

- 冠動脈CT実施は計21例
- 狭窄所見は石灰化部分に多く認める • Agatston scoreに必ずしも狭窄度は比例せず
- 石灰化を伴わないプラーク病変もあり
- うち11例は循環器対応(予定を含む)
- PCI 実施1例
- PCI推奨するも未実施1例
- 新型インフルエンザ流行を避けたため評価未完了者あり

草加八海地特達物所吸器研究会(SYRC-R:シルケアール)

## 講演: 元訪問看護ステーション所長・看護師 牛久保 縮紀さん

## 訪問看護師が筋萎縮性側索硬化症(ALS)になって ~NPPV·HOT患者の立場から皆さんへ伝えたいこと~

問看護ステーション所長で看護師として癌や 用語に置き換えてお話される内容には説得力 認知症や筋萎縮性側索硬化症(ALS)などの があります。事前質問にもお答えを用意して 在宅呼吸管理をする立場から、現在はその ALS 患者として在宅酸素療法(HOT) や非侵 襲的陽圧換気療法(NPPV : 主に鼻マスクで を映した NHK の番組上映、著書の販売も予 行う人工呼吸)を含む医療・介護を受ける立 定し、NPPVの実物を展示します)。

今回講演をお願いした牛久保さんは、元訪 場になっている方です。特に患者として医療 頂きましたが、会場からも日頃の疑問点など お尋ねいただければと思います(当日は日常

#### クリニック臨床工学士による在宅呼吸管理

ています。牛久保さんの呼吸器も院長の山洞で行う、そのノウハウをお話して頂きます。

阿部先生はクリニック所属の臨床工学士と 先生から許可を得て調整し管理しています。 いう珍しい立場ですが、在宅呼吸管理の往診 在宅のままでのNPPV導入など、在宅呼吸管理 を日課として日々患者さんの呼吸と向き合っ を「アート」のレベルで山洞先生と二人三脚

## COPD地域連携パス運用3年の集計と 登録症例の横断的調査について

これまで治療介入しても手応えがなかった をこれまで示してきました。調べてみると骨 COPD 診療に関する大規模臨床研究が、薬物療 粗鬆症や睡眠時無呼吸の頻度もかなり多いと 法により病気の経過を変えうることを証明 し、患者さんの将来に光が見えてきました。 しかし詳細な解析により COPD の患者さんにお 齢および出身地域) および生物学的要因(肺 機能、COPD 増悪の経験、心筋梗塞歴、BMI(栄 養状態)の低さ)の両者が関連していることが 示されました。

原疾患の増悪のほかに、悪性腫瘍の発症、虚

推定され、全身性疾患として管理する必要性 が益々高まっています。

今回、3年経過したことを機に、全ての登 ける死亡リスクの増大には、社会的要因(年 録患者さんにこちらから連絡をとり、横断的 な現状問診調査(未来院で希望者には診察・ 検査を実施)を計画しました。既に再評価で 受診した方もそうでない方も同じ手法により 評価することで循環型連携の実情が把握で 我々のCOPD連携パス関連症例でも呼吸器 き、今後のパスと連携手帳の改良に役立てる メリットがあります。倫理的な課題も含めて 血性心疾患や冠動脈動脈硬化所見が多いこと皆さんのご意見を頂戴したいと思います。

牛久保結紀さん著(文芸社) ISBN 9784286090405



昨年NHKで放映された牛久保結紀さん の療養を紹介する番組のホームページ

#### 2010年1~6月学術活動

第25回日本静脈経腸栄養学会総 2月 会(発表:新 智美)

第107回内科学会総会

(講演:新 謙一)

(発表:惠島将(草加市立病院 4月 初期研修医)、新 謙一)

第50回日本呼吸器学会総会 4月 (発表:新 謙一)

滋賀COPD研究会 (講演:新 謙一、新 智美)

草加八潮医師会学術講演会

5月

第24回非侵襲的換気療法研究会 6月

(発表:新 智美)

## COPD疑いは草加市立病院呼吸器科の朝8:30外来に



SYRC-R代表世話人 高木クリニック 高木 實

有志の集まりでしたSYRC-Rは、昨年から草加八潮医師会に運営し て頂けるようになり、今年は更にネットワークが強化され患者さんを 支える手段が増えます。しかし、基本は家庭医でのスクリーニング、 特に草加市の肺癌検診が重要で、コンサルテーションの窓口もわかり やすく草加市立病院呼吸器外来に1本化したシステムは従来と同じで す(外来2回目以降の専門指導は水曜日の新先生外来になります)。

厚労省の施策で全国各地で連携パスが急速に普及してきています が、実際に200名以上の患者さんがシステムに参加している実績のあ るパスは数えるほどしかありません。私達は地域に根付いた連携パス をこれからも改良・充実させて皆さんと共に育てて参ります。

